

2025 vol.81 12月定例会

つわの議会だより



11月に開催された議員と町民の座談会の様子（詳細はP16）



令和7年12月定例会

- 議長の新年のご挨拶・全員協議会 …… 2
- 一般会計補正予算 …… 3
- 一般質問 …… 4～13
- 所管事務報告 …… 14
- 条例の制定・賛否表 …… 15
- 津和野町議会座談会 …… 16



新年のご挨拶

津和野町議会
議長 草田吉丸

明けましておめでとうございます。

津和野町議会を代表し、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。町民の皆様には、新春をお健やかにお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は津和野町議会に対し、温かいご支援とご理解を賜り、厚くお礼を申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、津和野町では大きな災害もなく比較的平穏無事な一年であったことは、何よりも幸せなことだと思っております。

10月に行われた町長選挙においては選挙戦が展開され、結果として5期目の下森町政がスタートいたしました。

山積する多くの課題解決を図るとともに、新たな発想も取り入れながら、特色あるまちづくりに向け、力強いリーダーシップを期待するものであります。

さて、ガソリンの暫定税率廃止に向けてガソリンの値段が下がってきたことは中山間地域に住む私達にとっては家計負担の軽減につながる待望の税制改革となりました。

しかし依然として物価高騰対策等重要課題が山積しています。私達議会も、二元代表制の一翼を担うものとして、町民の皆様の

声を大切に、真摯な議論を重ね、課題解決に向け、町政と連携し、全力で取り組んでまいり所存であります。

そして、本年4月には、任期満了による津和野町議会議員一般選挙が行われます。今後、地方自治において議会の役割はますます重要になってまいります。その役割・使命をご理解いただき、多くの方が春の選挙に挑戦されることを願っています。

結びにあたり、新しい年が、町民の皆様にとって夢と希望が持てる、明るい年になりますことをご祈念申し上げ、年頭のご挨拶いたします。

令和八年 正月

全員協議会

◎第2次津和野町総合振興計画後期基本計画等の評価・検証に係る審議の報告

◎交通空白時間帯解消に係る日原・津和野間の夜間実証運行(10人乗りタクシー)

日程 令和7年11月1日、令和8年1月31日

運行ダイヤ

津和野温泉発 20時、21時

道の駅シルクウェイにちはら発 20時50分、21時50分

運行业者 (株)フォーブル

◎企業版ふるさと納税の活用による宙辺SORABE施設及び周辺環境整備事業

宙辺SORABE(旧ペンション北斗星)に対し、備品として物納による寄付と、その周辺環境整備に充てるための寄付

◎道の駅津和野温泉なごみの里ZEB化改修工事に伴う休業損失補償並びに追加工事

補償額

1560万4000円

追加工事

施設の老朽化に伴い、要修繕箇所が複数発生。(例…温泉施設の樽風呂更新、河川放流管敷設、和式トイレの様式化、点検用階段設置など)

3061万3000円

◎東京事務所状況報告

主な活動内容

特産品販売・PR・移住定住関連・観光振興・関係人口構築・津和野高校支援・広報活動等

物販販売実績

イベント12回

174万9230円

来所者数

611人

◎議員紹介

先に行われた津和野町議会議員補欠選挙(令和7年10月19日)において当選された方々をご紹介します。



もり もと のぶひさ
森本修久

(文教民生常任委員会所属)



てい たいじん
丁 泰仁

(総務経済常任委員会所属)

令和7年度 津和野町一般会計補正予算（第4号）

12月定例会（12月12日～12月19日）にて可決

2億9860万6千円を追加し歳入歳出予算の総額を111億4417万9千円とする

「主な歳出」

抜粋（千円以下切り捨て）

総務費

- 津和野庁舎耐震改修に伴う電話工事及びネットワーク工事請負費 …………… 2442万円
- 津和野庁舎耐震改修に伴う庁用器具費…………… 1815万円
- 職員の勤怠管理システム導入支援業務委託料 …………… 440万円
- 道の駅なごみの里施設修繕工事請負費…………… 3061万円
- 道の駅なごみの里ZEB(ゼブ)化改修工事に伴う休業補償金 …………… 1560万円
 ※ZEB(ゼブ)化～公共施設など非住宅建物の電気や熱などのエネルギー少量を多く減らすために、
 高い断熱性能の壁や窓、電力消費の少ないLED照明などの省エネ機器駆使すること
- 生活支援給付金支援事業の通信運搬費 …………… 250万円
- 物価高騰対策重点支援給付金支給事務委託料 …………… 222万円
- 物価高騰対策重点支援給付金支援事業補助金 …………… 6251万円
 ※全町民につわみんな生活応援券を1名につき1万円分を支給（令和8年3月予定）

民生費

- 吉賀町銀杏寮賄材料費高騰に伴う養護老人ホーム負担金 …………… 118万円
- 国民年金システム改修委託料 …………… 159万円

児童福祉総務費

- 放課後児童クラブ運営委託料(人件費・物価高騰によるおやつ代に係る委託料) …… 265万円

商工費

- 創業支援や店舗改修等支援に伴う個別商業包括的支援補助金…………… 107万円
- 城山ライトアップ照明器具、ポンプ所、トイレ制御盤等修繕料…………… 242万円

土木費

- 津和野、日原地区の町道等の修理等追加で道路維持業務委託料 …………… 340万円
- 町道金有線、奥山線舗装工事等に伴い工事請負費 …………… 2513万円
- 平野大橋、桧橋設計業務に伴い長設計業務委託料 …………… 477万円
- 相撲ヶ原川河床掘削工事等に伴い工事請負費 …………… 1029万円

消防費

- 非常備消防費では報奨費として5名分の退職報償金 …………… 206万円
- 個別避難計画作成業務委託料(避難行動要支援者が安全に避難のための) …………… 182万円

教育費

- 津和野中学校体育館空調設備設置工事实施設計に伴う設計委託料…………… 289万円
- 津和野町立小中学校LED化監理業務委託料 …………… 254万円
- 町立小中学校LED化工事請負費 …………… 8277万円
- 津和野中学校温風暖房機更新に伴う備品購入費…………… 179万円
- 名賀地域センタートイレ改修工事と日原地域活動拠点施設光引込
 電話設備工事請負費 …………… 603万円
- 池河体育館空調設備設計業務委託料 …………… 274万円

Q 列福運動の進捗状況は

A 申請書の日本語記述は概ね完了



丁 たいじん 議員 泰仁

問

当町の観光施策は、特に歴史的遺産である「乙女峠マリア聖堂」周辺の施設整備は現在どのようになっているか。特にトイレなどは貧弱で、乙女峠祭りに混雑が予想される。

「列福運動」に対するインバウンド客の認知度や関心度を測るデータは調査しておらず、今後検討していきたい。

近い将来規模を大きく新設されたいかがか。

また、最近増えているインバウンド観光客の、「列福運動」に対する関心度は調べているか。

町長 施設整備の草刈り等は完了し、景観はよくなっている。

トイレの件

Q 冬季の経済施策は

A 「つわみん生活応援券」の配布で生活防衛

問

観光シーズンも終わり、町通りに観光客の姿が見えなくなる冬季になり、商工観光関連業者は、町の何らかの経済施策を期待

観光シーズンも終わ

しているが。

町長 例年、個人消費喚起策として「忘、新年会等応援キャンペーン」を実施していたが、今年は物価高騰対策重点



乙女峠マリア聖堂

支援地方交付金を活用して、まずは生活者支援としての「つわみん生活応援券」を配布。

時期は来年3月を目途に、各人一万円の予定。

Q 津和野町民センターの改修は

A 学習・文化活動の拠点として、安心して利用いただける環境整備が必要

問

津和野町民センターは、来年度以降の改修になると思われるが、この度の改修においては、多目的ホールへの大転換。

そして「文化センター」としての役割を基軸に、現在狭小な津和野地区図書館のセンター内への新設を提議する。

更には文化人、芸能人を招致して、各種イベントの実施可能な設備整理（特に照明、音響、観客席など）。

またNHKの歌番組（BS日本の歌、のど自慢など）を招致して、当町の宣伝を全国に広めることで、



津和野図書館

観光客の増加、交流人口の拡大、経済相乗効果ともども、外資系ホテルの早期着工も期待できる。

教育長 今後関係部署と情報共有を図りながら、様々な可能性について検討する。



たなか うみ た ろう
田中 海太郎 議員

Q 町立図書館の役割とは

A 町民の読書活動や学習、文化的な営みを支える拠点

問

近年、図書館利用者が減少傾向にある（※）。人口減少に加え、読書離れが影響している。

昨年の実績では、一日の読書が0分の児童・生徒が半数に上るといふ。

当町は図書館魅力化を含め、どのような対策を考えているか。

教育長 町民ニーズに応じた図書の実質やサービス向上に努め、利用しやすい図書館を目指している。

また学校に図書館の本を配置したり、選書会を開催したり、乳幼児健診の場で絵本を贈呈し読み聞かせを促す「ブックスタート事業」を実施している。

問

「ブックスタート事業」の取組は素晴らしいが、乳幼児から高校生までと、読書推進は切れ目なく行なうべきだ。

一方で、現在図書館職員の勤務体制は原則1人のため、業務負担が大きい。休館日が極端に少ないので、週一の休日を設けて、2人体制の日を作つてはどうか。

教育長 今までの経過と状況を見ながら、休館日について

は検討していきたい。

問

日原図書館は「かわべ」も隣接して利用しやすい一方、津和野図書館は、経年劣化し手狭で、道路から出入りも危険である。

そのため、町民から建替えや移転の要望も上がっている。私は新築には賛同し難いが、今後の在り方の検討が必要だ。

教育長 津和野図書館の諸課題に関して、町としても理解

Q 第3次総合振興計画策定への意気込みは

A 将来像と施策がリンクした分かり易い内容にしたい

問

津和野町総合振興計画は、町の将来像の実現に向けた最も重要な計画である。

第2次計画は来年度で終了するが、第3次計画の策定までの流れはどうなっているか。

町長 現在第3次計画の基本構想の策定を進めている。

今年10月に町民意識調査を、12月に高校生を主としたワークショップを行い、素案を作成する。

その後、パブリックコメントで町民からの意見を募り、審議会・検討委員会を開催して、来年12月完成を目指している。

問

素案の作成は誰が行うのか。

町長 一連の作業にはコンサルが関わっており、まず素案をコンサルと事務局で作成し、審議会・検討委員会がその内容を協議していく。

問

コンサルの関わり方については今後注視していきたい。

町民意識調査やパブリックコメントの回答率は、

町長 今回の意識調査は、現時点で46%の回答率で、予想以上の反響があった。

町民の意識は高まってきているのではと思う。

※ R 6 図書館利用実績（登録者は累計）

（人数）	津和野	日原	小中高生
来館者	4091	4033	1461
登録者	1641	1435	423
利用者	234	270	97

している。ただ財源の問題もあり、現時点では具体的な計画を示すことは出来ない。今後検討していく。

問

また前回は、意識調査もパブリックコメントも行っていない。高校生の視点を計画に組み込むのは良いと思うが、まずは地元の方々の声を反映すべきでないか。

町長 町民の方々からどのような意見を引き出していかのかを考えたが今後検討していきたい。

問

他の地域では、住民と職員が一緒になつて、計画を作る先進的な取り組みもある。

人口減少が課題となる次期計画はとても重要なものだからこそ、町民や職員の手で町の将来の計画を作るといふ場を用意してほしい。

町長 町としても計画の普及に努めてきたが、まだまだ浸透しているとは言えない。一方で、過去の反省も踏まえつつ、作成の過程を大切にして、策定に向け動いている。



Q 学校給食における地産地消は

A 次年度も実証的取り組みを継続



おおえ 梨 議員

問 給食での地場野菜利用の実証的取り組みの状況は。

教育長 8月から11月の野菜の総量約2800kgの内地場野菜は約530kgで割合は約19%。昨年同期間では総量2500kgの内地場野菜は33kgで割合は約1%であったため、18%の増加。実証的事業に一定の成果を認めている。

問 現状では地場野菜利用には野菜の費用に加え、集荷配送費用が必要となるが、通常の仕入れと比較した場合の費用負担は。

教育長 通常仕入れよりも野菜の単価が抑えられているため負担は大きくない。

問 地場野菜利用について次年度の方針は。

教育長 給食センターはもと

Q 第3次総合振興計画の策定に向けては

A 庁内推進検討委員会と庁議で協議を重ねる

問 総合振興計画の性格と役割として「総合的かつ計画的な行政運営の指針」「町民と行政のまちづくりの指針」「政策評価の基準」の3点が位置付けられている。総合振興計画の存在は日々の業務にどのように活かされるか。

町長 予算措置は振興計画に基づくものであり、各課の職員の見解を踏まえて策定している。策定段階から浸透していると考えている。

問 「政策評価の基準」においては、各課で

より、対象施設を増やし、地元における地場野菜の使用量が増加する仕組みの構築に向け、関係各所と協議したい。

問 対象を広げ農林課主導で進めるか、今年度の同様の実証的取り組みの継続のいずれかを求めるが町長の考えは。

町長 財政を考えると集落支援員制度の中で実施できるのが望ましいが、実証的取り組みは来年度も継続したい。

問 国の給食費無償化への対応は。

国からの補助で足りない部分は町で補助し完全無償化とするのか、保護者負担を継続するのか。

教育長 国の動向を踏まえ適切に対応したい。

目線をそろえた目標を策定することに課題があるように感じる。

町長 ご指摘の通りである。今回から振興計画と総合戦略を一本化するため、以前より整理される。また、設定方法についてはコンサルタントにも関わってもらい検討する。

分かりやすさと実現可能性を意識し、町民が実感できる成果が伴う計画にすることが重要。

問 分かりやすさとは具体的にどのような方法か。

町長 例えば「教育の町」といった様なスローガンを掲げる

Q 住民主体の移動支援

A 大変意義のある取組と認識

問 畑地地域では「津和野町高齢者等の移動支援事業」を活用し住民主体の移動支援が行われている。今後、他団体より活動の申し出があった場合、補助金の拡充は可能か。

町長 町としても大変意義ある取り組みと認識している。申し出があった場合は事業の効果

を十分に踏まえ、財政状況を総合的に勘案し、適切に判断する。

のは一つの方法である。また各施策もそのスローガンに結びつく形で作っていく。

問 策定に向けたこれまでの進捗と今後の具体的な策定過程は。

町長 町民意識調査を実施し、現在集計段階。また高校生を主としたワークショップを開催し、これらを基に基本構想・基本計画のたたき台を作成。年明けからは現行計画の施策を担当課とともに検証する作業をはじめ、次期計画に掲げる政策を精査し、パブリックコメントによる意見を募りながら2026（令和8）年12月の完成を目指す。

問 住民主体の移動支援に関する相談窓口は。

町長 つわの暮らし推進課が窓口。

住民の移動課題は公共共通だけでは十分に移動ができない側面がある。

町としても地域主体の活動と公共交通の役割を相互に補完し合う形で地域の実情に応じた仕組みづくりが進められるよう、関係部署との連携を強化する。



よこやま もと し
横山 元志 議員

Q 令和 8 年7月には芸術士® が いなくなるのではないか

A 積極的に募集している

問 2016 (平成28) 年度より取り入れた「芸術士® 派遣事業」であるが、事業化に至った経緯は。

教育長 幼少期の子どもの成長にとって欠くことのできない自然体験や創造体験が減少する中であって、豊かな創造性を育む経験が不足すること、観察力や集中力の低下等、成長過程に課題が生じること

に危機感がある。
子どもたちが芸術に触れる機会を提供することで、創る楽しさや喜びを実感し、感性や創造力の育成とそれぞれの個性を伸ばすことを目的として事業を開始した。

問 理念としては素晴らしい、自治体として芸術士® 派遣を事業化しているのも当町独自のようであり、事業開始より10年経過し、当初2年くらいは不安があったが、試行的に実施して素晴らしい成果もあげてきた。

今こそ本格的な事業化を計り歳費を投じるべきではないか。

教育長 創造力や感性を育むため、新しい風を入れるべきと考え、人員を固定化せず、地域おこし協力隊での事業としていきたい。

問 試行的に実施とのことだが、いつまでが試行的実施なのか。

教育長 当初の地域おこし協力隊の任期3年経過までが試行的期間である。

問 3年任期の地域おこし協力隊が入れ替わりながら新しい風を入れるというのであるなら、なぜ現在集落支援員の芸術士® が配置されているのか。矛盾を感じるが。

教育長 入れ替わりの中で、芸術士® が0人になることが危惧され、事業を継続するにあたり地域おこし協力隊であった方に集落支援員として事業を継続させた。

問 現在2名体制の芸術士® 派遣事業で来年5月に1名退任、そして7月にもう1名退任する。

7月に芸術士® が0人になる見込みがあるなら集落支援員の芸術士® がいたほうがいいのではないか。

教育長 集落に関わるというより、地域に関わるというほうが適切と考える。

問 総務省の地域おこし協力隊の要件に「住民支援など『地域協力活動』を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組」とある。現在、地域おこし協力隊で芸術士® として活動されている方は、当町に残り活動し続けたいと考えている。定住・定着したいと言っている。しかし当町では任期満了にともない出て行つてくださいます。ということになるが。

教育長 地域おこし協力隊の任期はあくまで3年、芸術士® 派遣事業としても任期の中で活動していただき、活動の中で本人が定住に係ることをしていたくものだと考える。

問 この芸術士® 派遣事業は保く幼、幼、小そして大人まで関われ、0歳児からのひとつくり事業を網羅できる唯一の事業。他の事業はどうしてもポイント的になっている。

核となる事業であるから途切れさせるわけにはいかないと思われるが。

教育長 大切な事業なので途切れないうちに進めていきたい。

問 0歳児からのひとつくり事業にとって大切な芸術士® 派遣事業であるが、町長として、また保護者

としても教育長と同意見か。
町長 政治的中立性から意見の相違はあれど、議論を重ねた上で、最後には教育委員会の応援をしていく。

ただ、地域おこし協力隊の任期は3年、4年目からは自立していただくために、創業支援や「つわの学びみらい」と言ったものを活用して定住していただきたい。

問 農林業は収入を得れるものだが、芸術士® は収入が発生するものではないところで、「つわの学びみらい」という受け皿は最適と考える、ぜひ検討していただきたい。

教育長 芸術士® 派遣事業について「つわの学びみらい」を受け皿にする検討材料のひとつにはなる。

問 月に1度程度、安野光雅美術館にて芸術士® がワークショップを開催しているが、教育長の認知の見解は。

教育長 創造力を高め感性を磨くものになっていると思う。



Q 子どもの遊び場を

A 身近な公共施設に充実させる



かわだ つよし
川田 剛 議員

問

「子どもの遊び場がない」という声は、保護者や児童・生徒などから多くある。

この度の町長選挙では、町長は子育て支援の項目に「公園整備の検討」を掲げられている。

検討にあたっては、津和野町民センターの改修とあわせて、もしくは道の駅周辺など町内外の方々が訪れる場所を提案する。

町長 子どもの遊び場や交流の場の確保が重要と認識している。

町民センターは2026（令和8）年度から基本計画等の検討に着手する予定。子どもの遊び場の整備は、建設検討委員会を設置し、財政状況を踏まえながら検討したい。

公園整備全般の進め方として、26（令和8）年度に「津

和野町立地適正化計画」を策定し、各種事業の基本方針を定める予定。

この計画の中で、公園・広場などオープンスペースの位置づけや整備の方向性も整理する。

本年度は、計画策定に向けたアンケートを実施しており、子どもの遊び場や公園に関するニーズも聞いている。

あわせて、日原カントリーパークが、30（令和12）年に国スポの競技会場として計画されており、関連整備に大きな力を割く必要があり、大規模な公園事業には慎重な対応が求められる状況。

今後は、これらを一体的に進めながら、身近な公共施設に付帯する遊び場を充実させ、子どもが安全に遊べる環境づくりに取り組みたい。

Q 住宅改修事業はいままで

A 4年間は継続に努めたい

問

空き家対策、空き店舗対策についても町長の公約に掲げられており、空き家対策については継続することであった。

「つわの住まいる応援事業」

は申請件数が多く、定住施策の目玉の一つである。

しかし、現在進められている事業の財源はふるさと納税が充当されており、寄付額や制度の見直しなど財源として

不確実な面がある。

今後の空き家、空き店舗の改修について町長の所見は。

町長 「つわの住まいる応援事業」は他の自治体ではあまり行われていない事業であり、定住促進につながる事業であるが、財源に課題を感じている。

しかし、町長任期の4年間は継続できるように、財源の

確保も含め、あらゆる努力をしていきたい。

空き店舗対策に関しては、12月より町内の空き物件の活用促進を担う地域おこし協力隊員1名を任用した。

商工会と連携し、空き店舗等を活用した新規出店の促進を通じて地域活性化と、当町観光の魅力向上を図りたい。

Q ビン類のゴミ袋は、大きく、重たい

A 小サイズの作成を進める

問

ゴミ処理コストが増加している。

また、「高齢者には大きな

ゴミ袋は使いづらい」とのご指摘もあり、特にビン・缶などのゴミ袋は、容量一杯に入れた際は重くなる。

レジ袋サイズの小さなゴミ袋を販売することで、高齢者や単身世帯でも使いやすく、かつ少量であったとしても分

別回収できゴミ処理コストが削減できるのではないかと考えるが、町長の所見は。

町長 ビン類のゴミ袋については、かねてより小サイズの作成について多くの要望をいただいております。解決すべき課題だと認識している。

内部協議を行い前向きに進めていきたい。





もりもと のぶひさ
森本 修久 議員

Q 文化財修繕進まぬ津和野町

A 限られた財源の中 行政の責任と 考え進めていく

問

当町は国、県、町の指定文化財を有するが、その多くが修繕整備必要と認められている。文化財は当町の観光の目玉であり関連関係者を生業とされる事業者の方々には死活問題に直結する事案であり早急な対応を望む。

現状と今後の取り組みは。

教育長

国指定の津和野城跡は2012(平成24)年から着手し本城石垣修理工事は34(令和16)年頃完了の見込である。

同じく国指定の鷲原八幡宮は21(令和3)年より事業着手し30(令和12)年頃完了する見込みである。

問

他の文化財修繕の予定は。

教育長

早急な修繕が必要と認められている山陰道と旧堀氏庭園は設計、時期について文化庁や県教育庁と協議の上、当町の財政状況を考慮し

て検討していく。

問

修繕が長期間滞っているのはなぜか。

教育長

指定文化財の修理には多額の事業費の他に調査や事務等が必要となり当町は自治体規模の割に数多くの指定文化財があるため対応が十分に追いついていないのが現状である。

問

今後の取り組みや管理体制、資金捻出方法は。

教育長

『津和野町文化財保存活用地域計画』に元づき文化庁や県教育庁とも協議しながら職員や集落支援員による現場確認の他、所有者、地元団体などによる管理を継続し現状に応じ適切に計画を見直し修理事業を進めていく。

Q 「教育の町 つわの町」成果と指針は

A 効果はある

問

『教育の町』をビジョンに当町独自の様々な取り組みを行っているが現状その成果は認められているか。

教育長

学校や課外学習で行

われる対話的な学習を通じて、コミュニケーション能力が向上するとともに地域の課題を見抜く力が養われ、能力開発と学力向上に効果があると

考えられる。

問

このような施策は当町にどのような恩恵が

将来期待出来るか。また、根拠は。

町長

この町の人や自然、伝統文化等の良さを伝えることになり、古郷愛が醸成され関係人口の創出や定住促進にもつ

問

施策の今後の広がりは。

教育長

地域総ぐるみの教育環境の構築を目指し、大人となっても自ら学び続ける人として将来を担う人材となる事を期待する。

Q 『町民センター』リニューアル計画は

A 建設検討委員会で検討を進める

問

町民センターの改修事業の進捗状況は。

教育長

今後基本計画、基本設計、実施設計業務を行い28(令和10)年、29(令和11)年での施設整備を基本に現在検討を進めている。

問

建物の様式や活用の展望は。

Q 健全な財源創出の構築を

A 関係機関と連携して進めていく

問

討議の場などで『財政の逼迫』により今後の議題とするとよく聞く。新たな財源創出の仕組みや準備は進められているのか。

町長

国の制度や定められたルールに測り財源の確保地道に取り組む事が重要と考える。税収増に向けた取り組みとし短中期的には観光振興や

IT系企業誘致による経済活性化を推進している。

製造業の工場誘致もあきらめず、そのためには高規格道路の整備が重要であり、国道9号の抜本的整備計画も始まっており、今後も着実にそのスピードを上げる働きかけを関係機関と連携し進めていく。



よねざわ ひろふみ
米澤 宏文 議員

Q 石見交通広益線清流ライン「高津川号」を津和野駅経由の実現を

A 住民の移動手段確保と利便性向上は重要な課題である

問

石見交通広益線清流ライン「高津川号」

を津和野駅経由の実現を。

利点は、1日5往復便、乗り換えなしで広島新幹線口行ける。益田や吉賀町へ行きやすくなる。

津和野と益田間のJR運航は益田行き各駅停車7便、特急3便。

清流ライン「高津川号」

を津和野駅乗り入れで往復10便の増となり益田市、日原地域、吉賀町への交通が大幅に便利となる。

石見交通広益線清流ライン「高津川号」
益田→広島 1日5便 広島→益田 1日5便 運航



大幅に便利となる。

JR山口線利用広島行きは津和野駅で跨線橋、新山口駅で跨線橋、往復で4跨線橋を昇降する。

広島観光・津和野観光共に便利で有効な交通体系となる。

現状は、日原地域バス停留所から乗車。

津和野駅経由所用時間は、

国道9号線、国道187号線交差点から法定速度で津和野駅往復28分乗車時間入れて30分。

マイナスイ面としては、山口線の乗客の減少が懸念され、運航時間が30分長くなる。

諸問題はあるが、これから益々高齢化が進み、JRの跨線橋を利用できない方が増えることは明白。

「高津川号」の津和野駅経由で住みやすい町を目指して実現の努力して頂きたい。

町長 石見交通「広益線」は益田市から日原経由で広島新幹線口へつなぐ広域的路線。

運航形態や経路、ダイヤ編成は単に一自治体の要望だけでなく、沿線自治体全体の需要や事業者全体の運行計画、国庫補助制度の枠組み、採算性を総合的に勘案し設定。

津和野駅経由ルートで迂回による運行距離・所要時間の増加、既存利用者の乗車時間や到着時刻、乗り継ぎへの影響、燃料費。人件費等の運行コストの増加、増加コストに見合う採算性等、検討が必要。

様々な状況を地域公共交通会議等で関係者と情報を共有

有し、石見交通に対し、津和野駅経由を含めた経路・ダイヤの在り方、財政負担も含め町として対応可能な範囲を見極め、慎重に協議・意見交換を行う必要がある。

住民の方の移動手段の確保と利便性向上は重要な課題であるが同時に本町にとっても

Q 町所有ドローンの活用状況

A 二等無人航空機資格を所有

問

2022（令和4）年9月補正予算36

1万円で鹿対策用として購入し、農林課所管のドローンの活用状況は。

最近の報道で熊が人家近くに出没時、ドローンで位置確認し爆竹で追い払ったテレビ放送があった。

津和野町も有効な活用を願う。ドローン国家資格等所持者は。

町長 農林課4名二等無人航空機操縦士資格。

問 鹿、熊探索（赤外線センサー）（熱感知器）利用実績は。

町長 鹿は年に複数回。熊はなし。

問 人家近くで熊の出没情報が有ったとき出

持続可能な運航形態の両方を確保することが不可欠である。

今後とも、民間事業者や関係自治体と連携しつつ、限られた財源の中で持続可能性と採算性を考慮した地域公共交通の在り方を慎重に検討して行く。

動し探索の可否は。

町長 可能であるが、日没後は目視できない。

問 災害状況把握実績は。

町長 これまでなし。

問 行方不明者捜索実績は。

町長 なし。

問 搭載カメラで動画撮影の可否は。

町長 静止画、動画撮影可能。

問 営農組合等要望あれば貸し出しの可否

は。

町長 一般への貸し出しは難しい。

問 肥料、消毒液の散布は。

町長 農薬等の散布はできない。



みちのぶ としあき
道信 俊昭 議員

Q 当町への来客は「新しい視点」を持っている

A 新たな魅力の切り口を創出したい

問

津和野町において、観光客や町の賑わいが減少したのは確かである。その理由は、『津和野の歴史』という話題性が一区切りついたことにあると思う。

そこで、津和野の復活劇は『新しい魅力』を引き出すことである。

その一つは「人」。

具体例をあげると、ヨーロッパでプロとして活躍したバレエダンサーで、今は地元を中心に活動する傍ら世界を指す子供を育てている。

次は、少年のころ歌舞伎役者を目指して上京し、現在俳優として大活躍している若者だ。

さらには、陶芸作家・画家として親子で現代工芸の道を歩み、数々の作品を出展し、日本並びにドイツで受賞してきた。

ドイツとの架け橋の役にもなっている。

二つ目は「発信力」すばらしい文化を発信できる音響、

照明、観客席をもったホール

の大切さである。

最近の来町者は外国人や近隣の人が増えてきた。彼らは「芸能文化の講演」や「あの人に会いたい」などの観光以外の視点を持っている。これからの津和野の魅力を作るために行政としていかに対処するか。

教育長 こうした人達や活動に光を当て、新たな魅力の切り口を創出する取り組みが必要であると考えます。

音響、照明、観客席などを持ったホールの整備については、今後の町民センターの耐震改修計画に併せ、当町の財政状況等を考慮し検討したいと考えている。

なお、公演開催や活動について、広報など情報発信についての支援を図っていきたい。

また、こうした人達に続く次世代を担う若者たちの育成に関係団体と取り組んでいく。

Q 町民センターの受動喫煙対策は

A 喫煙場所の移設等検討する

問

「健康増進法」という法律がある。

基本的な考えは、子どもな

ど20歳未満の者、患者等は受動喫煙による影響が大きいことを考慮し、こうした方々が

利用者となる施設や、屋外について、受動喫煙対策を一層徹底するものである。

町民センターの自転車置き場に灰皿があるが、この場所は行政機関庁舎の敷地内禁煙場所であるはず。

通行人、特に幼稚園の園児に影響を与えているので「喫煙専用室」の設置を望む。

教育長 健康増進法の趣旨は、望まない受動喫煙を防止することと受動喫煙による健康への影響が大きい子供や高

Q 一度造った擁壁を壊した事例があったが

A 最も合理的な方法と判断した

問

「町道笹ヶ谷線」の改修工事において、当初設置されていた仮設橋を橋梁工事が終わる前に撤去したため、一度造った擁壁を壊すという事例があった。

仮設橋を撤去せずに残していれば、擁壁を壊す必要はなかったはずである。

このような事態になった原因は。

町長 施行にあたっては、旧橋を利用してトレーラーに桁を積載して搬入する計画としていたが、トレーラーの橋への進入角度が想定以上に急とな

齢者への配慮にある。

津和野町民センターは、体育館や集会場として第2種施設に位置付けられ、原則禁煙施設となるが、屋外であつても望まない受動喫煙を生じさせることが無いよう周囲の状況に配慮する必要がある。

特に幼稚園の園児に影響を与えているとのことであるので、喫煙される施設利用者のことも考慮のうえ、喫煙場所の移設等を検討し、受動喫煙の防止に取り組んでいきたい。

り、安全かつ確実な搬入が困難であることが判明した。

現場での技術的な検討の結果、トレーラーの安全な進入ルートを確認する目的にて、既に施工していた既設コンクリート擁壁の一部を撤去せざるを得ないと判断したものである。

問

擁壁撤去は起債（あるいは補助事業）として認められるか。

町長 社会資本整備総合交付金（補助率59.5%）を活用した事業であり、補助対象外の部分は過疎債を充当した。

Q グリーフケアを多くの人に知ってもらう政策を

A 講演会など町としてできることを検討したい



寺戸 昌子 議員

問

大切な人、赤ちゃんや子供、パートナー、家族との死別など大きな喪失を経験した人に寄り添い、立ち直りを支援するサポートのことをグリーフケアという。

大きな喪失を経験すると人によっては、「何もする気が起きない」「もともと何かできたはずなのに」「空腹を感じない」など様々な症状が出てくる。

大切なパートナーや子どもを失った人、大きな喪失を経験した人に寄り添い、立ち直りを支援する場所が町民の身近に必要と考える。

大きな喪失を経験した人の悲しみを無理に忘れさせるのではなく、悲しんでいる人が自分らしいペースで、悲しみと共に生きていける道を見つめる「悲しんでいいんだ」と思える手助けが必要だ。

グリーフケアについて行政はどのように関わるべきと考えるか。

町長 関係する医療・福祉・学校・NPO・宗教者などに繋ぐコーディネート役を担うこと。一時的には、保健師や包括支援センター、こども家庭センターの担当者が傾聴・

問

見守りを行い、必要に応じて専門機関へ橋渡しすることなどがある。

グリーフケアを多くの町民に知ってもらう施策を。

町長 グリーフケアは、意義のある事だと感じている。

グリーフケアは、身近な人々の支えが大切だと考えたとき、専門機関に相談に行く前のもつと入口の問題として、町民の方々がグリーフケアという言葉を意識してもらう、知ってもらうということが非常に重要ではないかと思う。

身近な地域でも一般向けの講習会など取り組んでいる。

一般の住民の方が実践できるグリーフケアについての理解を深める講演会の開催ができると思う。

専門家ではなくても一般町民としてグリーフケアとしてどういう関わり方があるのか学んで頂ける講演、講習会を開くことで広がっていくのではないかと感じている。

町としてやれることを検討していきたい。

Q 枕瀬山キャンプ場の改修を

A 必要に応じて修繕したい

問

枕瀬山キャンプ場は町内のみならず県外からの利用者も多い。

近くには高津川も流れ、自然を満喫できる素晴らしい環境にある。多くの方に利用してもらいたい。

しかし、経年劣化が激しく改修が必要と思われる設備も見受けられる。

枕瀬山キャンプ場は、どのくらいの頻度で利用されているのか。

年間の利用状況の人数、利用日数等は。

町長 年間利用は表の通り。

	利用人数	利用日数
令和5年度	322人	41日
令和6年度	244人	37日
令和7年度	255人	34日
※開園期間 4月～10月		

問

現在、改修が必要と思われる設備はどのくらいあるのか。

町長 バンガローにおいて一部

問

経年劣化による損傷がみられる。建設から30年以上経っているので専門家による点検が必要と考えている。

町長 専門家による点検は、いつ行う予定か。

町長 専門業者による点検は今年度中には行いたい。

問

近年、熊の出没が相次いでいる。安全なキャンプ場としてより踏み込んだ熊対策が必要ではないか。

町長 熊の気質が変わってきている。今のうちから対策を考える必要がある。

対策は、県との連携が必要で町単独では効果が出ない。勉強会、意見交換会等を要望している。

熊被害が出れば大きな影響がある。

関係各課と連携して対策に取り組みたい。



バンガロー



み たらい つよし
御手洗 剛 議員

Q 農業者激減どうする

A 農地集約化の推進、まずは話し合うことが大切

問

持続可能な農業の担い手確保対策は、農業者の減少が止まらない。

農林水産省がまとめた2025（令和7）年農林業センサスによると、農業を主な仕事とする基幹的農業従事者は5年前の調査より25%も減った。

農地を耕す人が見つからず、耕作地が今後、激増する恐れがある。

多様な農業者の確保と育成、農地集約が急務となる。

基幹的農業従事者の減少率は、比較可能な1985（昭和60）年以降、最大だ。

高齢化に加えて生産資材の高止まりや気候変動が重なり、離農が進んだとみられ、定年延長が進み帰農者も減少した。こうした傾向は今後も続く恐れがある。

農業者は、この国の食料安全保障を担う重要な存在だ。

規模拡大を上回るペースで農業者が減っている。

憂慮すべきは、農業経営体が82万8000と初めて100万を割ったことだ。

個人・家族で農業を営む個人経営体は高齢化などによ

て24%近く減った。

一方、法人をはじめとする「団体経営体」は増えており、1経営体当たりの規模拡大も進んだ。

多様な経営体がなければ地域は成り立たない。

中山間地域などの農地や水路を維持することもできない。

4月末までにまとめた市町村の「地域計画」では、農地1筆ごとの10年後の耕作者を書き込む「目標地図」を書き込めない白地農地が全国で3割を超えた。

このままでは、田畑の3枚に1枚が荒地となる。

耕作する農業者が見つからない白地農地をどう解消するか、耕作者を確保しない限り、農地を維持できず、生産基盤は一層弱体化する。

当町、本年度の農地作付け状況は。

町長 25（令和7年）度における農地面積は、水稻細目書（水稻生産実施計画書）によると約609ha（水稻作付面積324ha、転作面積約138ha）であり、不作付面積は147haとなる。

問

その内、農事組合法人並びに認定農業者の集積割合は。

町長 農事組合の利用集積面積は約217haで集積率35%、認定農業者（農事組合法人を除く）の利用集積面積は176ha、集積率28%となっている。

問

当町の「地域計画」策定と「目標地図」作成から見える課題は。

町長 10年後に将来の農業者が位置づけられていない農地面積の割合は約4割となっており、このことは、高齢化や後継者不足により、担い手の確保が厳しい状況にあることを示している。

また、現在、水稻耕作を他の集落にまたがって借り受ける担い手が複数人いる状況の中、今後はその担い手が高齢化等により耕作できなくなること、受け手不在の遊休農地の増加も懸念されている。

更には、「守っていくべき農地」とした範囲内であっても、水路の条件が悪かったり、補修が必要な箇所、ほ場の形状などの条件が良くないなど、ハード整備が必要な箇所も存

在している。

問

「特定地域づくり事業協同組合」の運営状況と課題、組織強化に向けた対策は。

町長 現在、5名の職員が在籍し、各組合員のもとで作業に従事している。

職員数が少なく、現状では、組合員からの派遣要望の全てには対応できておらず、段階的な昇給など給与面を含めて課題がある状況。

組合員の増加や員外利用の増加が見込まれることから、まずは職員体制を整えることで組織強化を図りたい。



所管事務報告書

総務経済常任委員会

調査事項

◎農業の担い手育成について

調査意見

- 農業者はこの国の食料安全保障を担う要であり、重要な存在であり、多様な人材による「農業の担い手確保」が急務である。
- 当町においても、2024（令和6）年度に、「地域計画」が策定された。

農地1筆ごとの10年後の耕作者を書き込む「目標地図」を書き込めない白地農地が42.9%もあった。

- 農地の集約化を進めるために、今後とも町が主体となって、女性や若者の意向も取り入れることが効果的であり、検討会の継続実施が必要である。

- 「新・農業者フェア」等による農業関連移住者受入れの取り組みは着実な成果を上げており、今後においても継続されたい。

- つわの百姓塾」は、担い手の育

成・支援に大いに貢献している。年間平均3回程度開催されており、農業関連移住者の心の拠り所になっており行政としての関わりを継続されたい。

- 津和野町特定地域づくり事業協同組合」は、職員の所得水準が十分でなく、職員数も増えていない。

体制強化のため、一層の財政支出を含む支援が求められる。

- スマート農業は、人手不足や高齢化といった課題を抱える中、作業の効率化や品質向上を目指す取り組みとして推進されたい。

文教民生常任委員会

調査事項

◎放課後児童クラブについて

調査意見

各放課後児童クラブが、公民館など他団体と連携して料理教室を行ったり地域の祭りに参加したりと工夫をし、「地域との交流」「施設の狭さ」などの課題解決に努めている。

施設での子どもが生活するス

ペースは、国の定める基準に達してはいるが、児童の活動状況に比べると狭くなっている。

現在、各クラブにおいて学校と協議の上で体育館やランチルームなどを使用し、スペースにゆとりがない課題を克服できるように努めている。

今後も健康福祉課、教育委員会としても協議して子どもが安心して安全に楽しく過ごせる場所作りに努力されたい。

また、体育館については冷房がない施設があり、夏に利用する場合子どもの健康面に懸念がある。

2033（令和15）年までに冷房施設を設置予定ではあるが、早急に冷房施設の設置を検討すると共に、緊急的手段としてスポットクーラー等を設置すべきである。

放課後児童クラブは、民間企業と地域運営団体へ委託している。

民間企業へ委託することで課題解決に至りつつあるが、逼迫あじさい児童クラブのように地

域団体の運営には多くの魅力が生まれている。

今後、地域による多様な団体の受け皿も視野に入れて行政の支援や検討も努力されたい。

長期休暇中の昼食の提供は、保護者の要望も強く、また、子どもたちの健康のためにも大変役立つ。

健康福祉課、教育委員会と協議して給食センター職員に負担増にならないよう配慮しながら期間拡大を検討されたい。

議員定数及び報酬等調査特別委員会

中間報告以後について

- 令和7年11月5日に津和野町特別職報酬等審議会が開催され、報酬改定額の根拠について委員長が審議会に出席し、本議会議員の報酬改定の根拠について説明を行った。

条例の制定

●津和野町特定乳児等通園支援事業の運営に関する基準を定める条例

●津和野町乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例

令和8年度より「こども誰でも通園制度」が全国的に実施されることに向けた条例制定。

保育所に通っていない生後6カ月～満3歳未満の子どもを短時間保育施設に預けられる新たな仕組み。

現在実施されている一時保育は親の都合（仕事等）での利用が目的とされた制度であるが、「子ども誰でも通園制度」は子どもの育ちの支援を目的とした制度である。

保育施設において当該制度の実施希望があった場合には認可制となっている。

条例の改正

◎津和野町職員勤務時間、休暇等に関する条例

◎津和野町職員の育児休業等に関する条例

◎津和野町職員の給与に関する条例

◎津和野町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例

◎津和野町長等の損害賠償責任の一部免責に関する条例

◎津和野町病院事業利用料及び手数料条例

（二例）健康診断書1千円→2千円入院証明書4千円→5千円等

○津和野町水道事業給水条例

口径 13mm・20㎡ / 月の場合の水道料金			
R6年	R7年 4月～	R8年 4月～	R9年 4月～
3,300円	3,795円	4,290円	4,620円

水道料金は令和7年4月より段階的に引き上げられ合計40%（令和6年比）のアップとなります。

請願

●政府に所得補償（直接支払い）制度の実現を求める請願書

【請願者】

島根県農民運動連合会

【紹介議員】

寺戸 昌子

【請願事項】

●農家の生産を下支えする所得補償制度の確立を求める意見書を政府に送付すること

【結果】

不採択

提出者	議案・賛否表	道	大	米	横	森	御	三	田	寺	川	結果
	○＝賛成 ●＝反対 棄＝棄権 欠＝欠席	信	江	丁	澤	山	本	洗	浦	中	戸	田
議長	令和7年第6回（11月）津和野町議会臨時会											
	津和野町選挙管理委員会委員の選挙											指名推選
	//											指名推選
	//											指名推選
	//											指名推選
	津和野町選挙管理委員会委員補充員の選挙											指名推選
	//											指名推選
	//											指名推選
町長	津和野町副町長の選任											無記名投票
	// 監査委員の選任											無記名投票
	// 教育委員会委員の任命											無記名投票
	//											無記名投票
	津和野町福祉医療費助成条例の一部改正	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○
	// 子ども等医療費助成条例の一部改正	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○
	令和7年第7回（12月）津和野町議会定例会											
	津和野町特定乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
町長	// 乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	// 職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	// 職員の育児休業等に関する条例の一部改正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	// 職員の給与に関する条例の一部改正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	// 会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部改正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	津和野町長等の損害賠償責任の一部免責に関する条例の一部改正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	津和野町病院事業利用料及び手数料条例の一部改正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	// 水道事業給水条例の一部改正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○
請願	令和7年度津和野町一般会計補正予算（第4号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	// 国民健康保険特別会計補正予算（第3号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	// 介護保険特別会計補正予算（第3号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	// 後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	// 病院事業会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	// 水道事業会計補正予算（第3号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	// 下水道事業会計補正予算（第2号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	政府に所得補償（直接支払い）制度の実現を求める請願書	●	○	●	●	○	●	●	●	○	○	●

津和野町議会 座談会

11月13日（木）津和野町コミュニティセンター大集会室、11月20日（木）津和野町役場本庁舎第5・6会議室、いずれも午後6時～9時に開催しました。



- 今回の座談会は、テーマごとに3つのテーブルに分かれ、参加者さんと議員が意見交換をしました。
- 過去の座談会では、いただいたご意見や困りごとは持ち帰り、委員会等で調査し、議会だよりなどで報告していました。
- 今回は持ち帰ることなく、また議会としてお答えすることもなく、議員個人の責任のもとに、お答えできるものはお答えし、調査・研究が必要なものは、議員個人の政治活動・議員活動の題材にさせていただくこととしました。
- その結果、12月定例会では5名の議員がいただいたご意見を題材に一般質問し、座談会のご意見が活用できたと思っているところです。

《反省と課題》

- 前年は各公民館での開催でありましたが、今回は旧町単位2か所で開催し、いただいたアンケートの結果から見ても旧町単位2か所で十分であるが、時々には公民館に出張する必要性を感じました。
- 今回も平日の夕方から晩にかけての開催でありましたが、アンケートにも休日・日中に開催の要望もあり、日時・曜日は固定せず、形を変えながら模索し続けていき、町民のみなさんと議会との距離を縮めていくことが必要と考えます。

編集後記

あけましておめでとうございます。

2026（令和8）年は4年ごとに開催される、サッカーワールドカップの開催年です。

早いもので、日本代表が強豪ドイツに勝ち、そして「三苦の1ミリ」で強豪スペインをも破ったことで、世界を驚かせ、日本を大いに沸かせてくれた前回大会から4年が経とうとしています。

さて、26（令和8）年はまた、津和野町議会議員選挙が執行される年でもあります。

様々な議会での出来事を分かりやすく、また読者の皆様に手に取っていただける紙面づくりを心掛けてきました。

このメンバーで編集するのは3月議会号のあと1回。最後まで手に取っていただける紙面づくりを心掛けたいと思います。

川田 剛

広報広聴常任委員会

◎横山 元志 ○田中海太郎

大江 梨 米澤 宏文

三浦 英治 川田 剛